

◆ JICAからの贈り物 ◆



これはどこの国の言葉だろう。少し聞き取れたのは、
“Gracias” …

教室に入って驚いた。いやはや、たくさんの国の言葉
が飛び交っている。本日実施した“International
day”の一コマである。この状況に笑い声があるのは、
主体的に関わっているからこそ…、とプラス思考で！

本校が、国際教育の一環として最初に海外派遣プ
ログラムに取り組んだのが1983（昭和58）年のこと。
この年はアメリカ合衆国への派遣。それから既に40年
近く経過した。特に平成16～18年度はスーパー・イン
グリッシュ・ランゲージ・ハイスクール（SELHi、セルハイ）
の指定も受け、生徒が英語に親しめるような環境作り
が進んだと聞いている。



JICA（独立行政法人国際協力機構。当時は国
際協力事業団）とのコラボは、当初JICAが主催する
「高校生エッセイコンテスト」に参加するなどして交流を
深め、今回の“International day”に繋がる。最近
では、様々な地域からのJICAの研修員の皆さんをお
招きしたプログラムを実施している。



今年度は、COVID-19のため多くの学校行事を制
限せざるを得ない状況が続いているが、その厳しい状
況下、例年にもまして多くの研修員の方々がおいでく
ださった。名簿を拝見するとコスタリカ、インドネシア、
ブータン…16名の皆さんにお世話になった。ありがとう
ございました。冒頭に記したような澁刺とした活動、こ
こで得た多くの学びが生徒を支えていくことを願ってい
る。



ここにもまた「**藤高クオリティ**」を見つけることができた。
本校自慢の[国際教育](#)である。